

株式情報

平成20年9月30日現在

発行可能株式総数	102,000株
発行済株式総数	33,405株
株主数	2,640名

■大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社イー・アンド・デイ	10,216	30.58
富加津 好夫	4,665	13.96
新田 純	830	2.48
生江 隆男	500	1.49
山川 陽光	485	1.45
崎山 武美	464	1.38
東 祥弘	456	1.36

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
売買単位	1株
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL：0120-78-2031（フリーダイヤル）
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

会社情報、IR情報は、ホームページでご覧いただけます。

会社概要

平成20年9月30日現在

会社名	株式会社ホロン (HOLON CO.,LTD.)
所在地	〒160-0022 東京都新宿区新宿2-5-5 新宿土地建物第11ビル3F TEL：03-3341-6431(代)
設立	昭和60年5月
資本金	6億9,236万円
代表者	穴澤 紀道
従業員数	41名
事業内容	半導体検査装置の開発、 製造、販売、保守サービス

役員

平成20年9月30日現在

代表取締役社長	穴澤 紀道
取締役	新田 純
取締役	崎山 武美
取締役	小林 賢一
取締役	安宅 正志
取締役	加藤 邦彦
取締役相談役	富加津 好夫
取締役	古川 陽
常勤監査役	生江 隆男
監査役	有賀 益千代
監査役	三澤 順一

※監査役 有賀益千代及び三澤順一は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

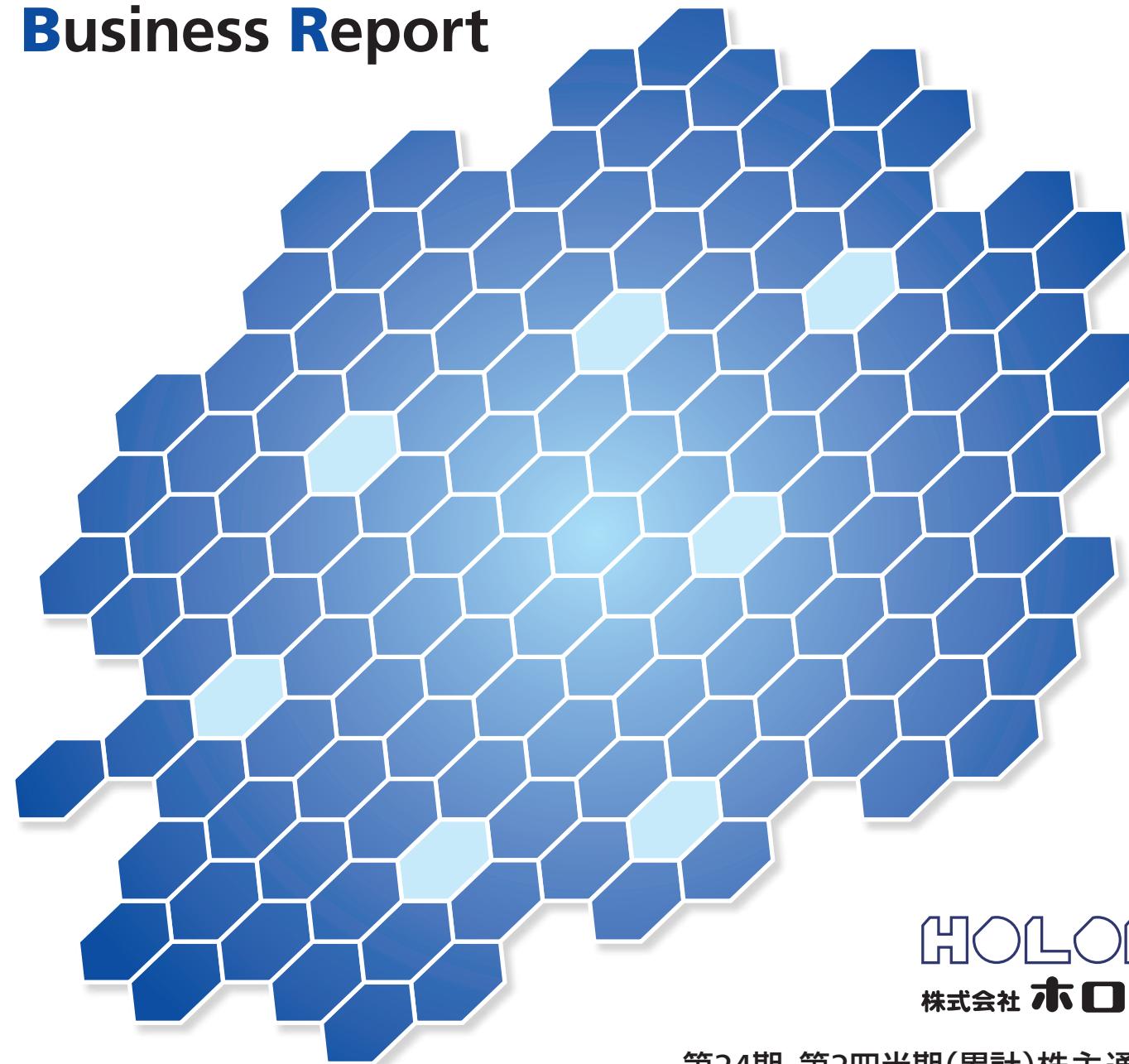
<http://www.holon-ltd.co.jp/>

HOLON 株式会社 **ホロン**

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-5-5 新宿土地建物第11ビル3F
TEL：03-3341-6431(代)
(JASDAQ：7748)



Business Report



HOLON
株式会社 **ホロン**

第24期 第2四半期(累計)株主通信
平成20年4月1日～平成20年9月30日



代表取締役社長

穴澤 紀道

ホロンのものさしはナノメートル。見えない世界を測ります。

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別なご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

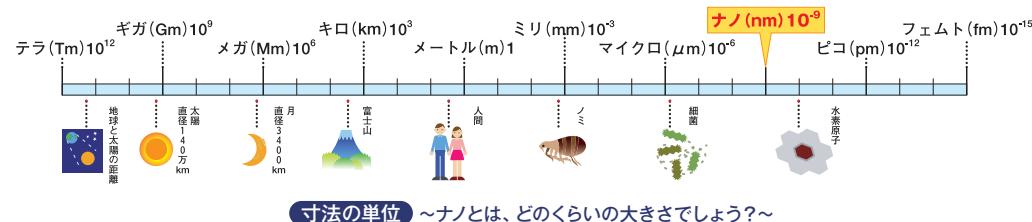
当第2四半期(累計)における半導体業界は、米国の金融危機をきっかけとした世界的な景気減速で、企業の半導体部門は業績悪化に陥り、設備投資の先送りや減額が検討される状況にあります。景気上昇は2009年度以降と予想されるため、現在、当社は、Inspection ToolとしてのCD-SEM市場の新規開拓に取り組んでおります。

微細加工市場では、HDD市場がLSI市場に劣らず微細加工技術を必要としております。微細加工のHDDを生産するためにはナノインプリント装置による加工が主流となり、そのモールド(金型又はテンプレート)検査用に、当社の「EMU-270A」が注目され、検査の評価依頼を受けるなど、今後の新しい大きなマーケットとして期待しております。

当期の販売状況は、7月に収差補正機能を搭載した最新鋭機「EMU-270A」を米国向けに出荷、8月には顧客ニーズに合わせた仕様で低価格装置に仕上げたCD-SEMを韓国向けに出荷いたしました。

今後も装置の性能面での優位性を確保しながら、企業の設備投資がいつ前倒しになっても対応できる体制、また、主力製品「EMU」一本の商品構成から脱却して、より柔軟に対応する新しい体制を基にした営業活動の強化に取り組み、まずは、全社一丸となって、当期に計画している商談の早期成立を目指したいと考えております。そして、業績の回復とさらなる事業拡大に努力し、経営の安定化を図ることで、企業価値の向上及び株式価値の向上を目標に尽力していく所存です。

株主の皆様におかれましては、引き続き、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。



CONTENTS

株主の皆様へ	1	第2四半期(累計)財務諸表(要旨)	5-6
特集 今後の取り組み	2-3	株式情報、株主メモ、会社概要、役員	裏表紙
業績報告・HISTORY	4		

当社は、2009年度3月期の業績計画を達成するべく、以下のような施策を掲げております。

ACTION 1 —— 主力製品EMUの性能アップ(競争力)と新規市場開拓

ACTION 2 —— 電子スタンパーの高輝度LED市場への販売

ACTION 3 —— 台湾・中国市場の見直し

1 主力製品EMUの性能アップ(競争力)と新規市場開拓

- 最新鋭機である「EMU-270A」は、次世代の32nm(ナノは十億分の一)ノード以降にも対応させるために分解能を大幅に向上させるべく研究開発を継続しております。DRAMをはじめとするメモリー市場の低迷から、半導体メーカーやマスクメーカーは前年度の2007年から設備投資の抑制、先送りしています。このような中で一部の半導体メーカーだけが次世代の設備投資を行い、装置メーカーはその受注をするために激しい性能競争を強いられています。

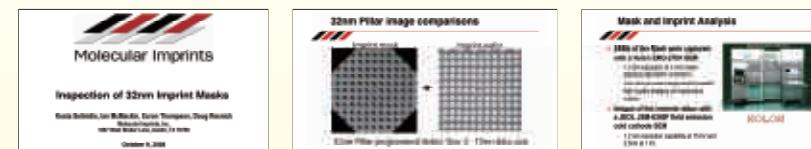
「EMU-270A」は低真空と収差補正器を搭載し、32nm以降に必要なダイナミック精度0.3nmを実現いたしました。その結果、「EMU-270A」は、2008年7月米国向けに出荷いたしました。

- Inspection Tool としてのCD-SEM市場の販路開拓に取り組んでいます。微細加工市場では、HDD市場がLSI市場に劣らず微細加工技術を必要としています。微細加工技術にはナノインプリント装置、電子線マスタリング装置が必要となり、検査ではCD測定検査及び欠陥レビュー検査が求められています。「EMU-270A」は、2008年7月よりデモ調査を開始し、2008年10月9日に開催されたBACUSではMII社発表の論文「Inspection 32nm Imprint Masks」内で、高解像を有しチャージの少ないマスク検査用SEMとして紹介されています。



EMU-270
電子ビームによりマスクの寸法が設計どおりに行われているかを測定する装置です。

MII社の当社紹介資料



BACUS

毎年米国で行われているマスク技術国際会議。フォトマスク技術に関する国際会議では、世界で最も歴史のある会議です。

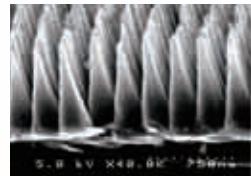
2 電子スタンプの高輝度 LED 市場への販売

- LED（発光ダイオード）生産用パターン転写装置である電子スタンプ「EBLITHO」は、LEDメーカーであるエルシード株式会社の協力を得て、LEDの光取り出し効率において成果が得られ、高輝度LED市場への営業強化を図っています。
- LEDは1個当たりの販売価格が安いと、生産コストが重要です。生産コストにおきましては、市販の電子線用レジスト（感光材）が高額のため、安価な電子線用レジストの開発が必要になりました。量産すればするほど、装置の価格よりも、材料費の方が生産コストの比重を多く占めることになります。当社は今期（下期）より、ステンシルマスクやレジスト材料におきましては当社顧客及びレジストメーカーのご協力を得て開発に取り組み、安価なレジスト供給を確保し商談を進めております。



EBLITHO
LED生産用パターン転写装置
LED（発光ダイオード）市場をターゲットとし、ステンシルマスクを利用した低加速電子ビーム高速転写装置です。

EL-SEED（エルシード）Moth-eye 構造



鳥瞰電子顕微鏡像（40,000倍）

シリコンカーバイド（SiC）上に形成されたモスアイ構造です。Moth-eyeとは蛾の眼という意味です。光の回折効果を利用した周期構造をしており、発光面に微細な凹凸構造を正確なパターン間隔を転写することでLEDチップからの光を外部に取り出す効率を高めることができます。

エルシード株式会社（英文:EL-SEED Corp.）

創 立	2006年（平成18年）3月9日
代表取締役社長	神谷 忠雄
資 本 金	5,650万円
所 在 地	愛知県名古屋千種区不老町 名古屋大学赤崎記念研究館3F
事 業 内 容	1.半導体素子及び半導体素子が組み込まれた部分品の製造、販売 2.前号に付帯する一切の業務

3 台湾・中国市場の見直し

中国市場へは、2001年にCD-SEMを納入しておりますが代理店のサービス技術力や販売力が不足していたため、市場の閉塞感がありました。このため、2008年5月にMARKETECH INTERNATIONAL CORP(MIC)社と新代理店契約を締結し、サービス及び販売強化を図ってまいりました。中国市場におきましてもCD-SEM装置の需要は増加しつつあり、設備投資予算の申請の段階に達している半導体メーカーが多く見受けられることから、代理店契約締結後すぐに営業活動が開始されております。前モデル「EMU-270」の製造コスト低減を図り、低価格で販売する方針をとっています。

MARKETECH INTERNATIONAL CORP(MIC) 社

1988年台湾で創立され、本部は台北にあり、中国、シンガポール、韓国、日本と米国に海外支社を有し、マーケティングとテクノロジー統合サポートサービスを専門とする代理店です。

当第2四半期累計期間の概況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、米国の金融危機をきっかけに世界経済の減速、資源価格の高騰等の影響を受け、景気の先行きは不透明のまま推移し、景気後退は浅くとも低迷の長期化が懸念されております。半導体業界におきましても、世界的な景気減速で、企業の半導体関連部門は業績悪化に陥り、設備投資の先送りや減額が検討され、マスク用CD-SEM市場に参画する当社にとりましても厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社の主力製品であるフォトマスク用寸法測定装置「EMU」は、測定対象が最先端の45-32nm（ナノは十億分の一）対応の要求を受けて開発を進め、半導体デバイスメーカー及びマスクメーカーの評価を受けてまいりました。平成20年7月に収差補正機能を搭載した最新鋭機「EMU-270A」を1台、国内販売店に販売して米国向けに出荷し、当第2四半期に売上計上を予定しておりましたが、エンドユーザーの検収完了が第3四半期以降の予定となっていることから入金時期が確定しないため、第3四半期以降の売上計上といたしました。

また、LED（発光ダイオード）生産用パターン転写装置である電子スタンプ「EBLITHO」は、課題でありました転写時に必要なレジスト（感光材）の開発がレジストメーカーの協力を得て終了し、周辺技術も充実してきたことから滞っていた商談を進めております。

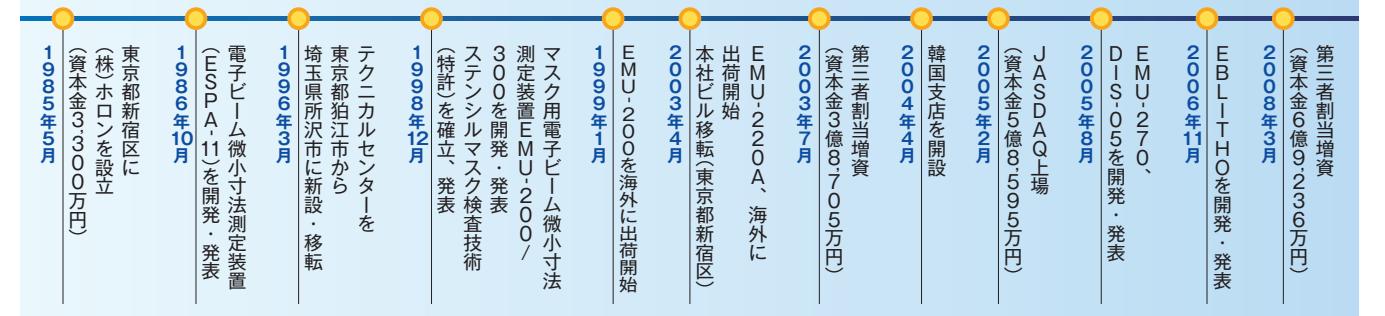
上記の結果、当第2四半期累計期間における業績につきましては、売上高は104百万円（前年同期比1.9%減）となりました。また、棚卸資産評価損307百万円を計上したため、営業損失459百万円（前年同期は181百万円の営業損失）、経常損失につきましては韓国ウォンの下落による為替差損等14百万円の発生もあり473百万円（前年同期は180百万円の経常損失）、四半期純損失482百万円（前年同期は386百万円の四半期純損失）となりました。

通期業績の予想

今後の見通しにつきましては、世界的な景気減速で半導体市場の低迷が長引くと予想され、当社にとって最大顧客であるマスクメーカー及び半導体デバイスメーカー各社の業績に与える影響等は依然として不透明であります。下期におきましてもこの傾向は継続すると予想されることから、なお一層の企業努力をしております。通期の業績の見直しにつきましては、当第2四半期累計期間における棚卸資産評価損等の計上を受け、売上高870百万円、営業損失264百万円、経常損失278百万円、当期純損失287百万円に修正いたしました。

また、共同開発におきまして、当社の主要株主である株式会社エー・アンド・デイの協力を得て、次世代向け製品の基本性能アッププロジェクトを計画しております。内容につきまして、同社のクリーンルームに「EMU-270」を設置し、同社の保有する卓越したアナログ・デジタル回路技術を応用した高速画像処理能力を活用し、当社製品のマスク用欠陥検査機能の高速化を図るものであります。このプロジェクト・チームは、本年12月を目処に編成、設置し、平成21年6月を第1期目標として活動開始する予定であります。

HISTORY



第2四半期(累計)財務諸表(要旨)

第2四半期(累計)貸借対照表

(単位:百万円、単位未満切捨)

科 目	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 平成20年3月31日現在	当第2四半期 会計期間末 平成20年9月30日現在
■資産の部		
流動資産	1,191	681
現金及び預金	210	133
受取手形及び売掛金	64	34
有価証券	280	131
原材料	43	24
仕掛品	584	350
その他	7	6
固定資産	146	134
有形固定資産	94	90
投資その他の資産	51	43
資産合計	1,337	815

科 目	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 平成20年3月31日現在	当第2四半期 会計期間末 平成20年9月30日現在
■負債の部		
流動負債	128	91
買掛金	63	42
1年内返済予定の長期借入金	19	16
未払法人税等	3	2
引当金	9	9
その他	31	21
固定負債	94	91
長期借入金	36	28
引当金	54	59
その他	3	3
負債合計	223	182
■純資産の部		
株主資本	1,114	632
資本金	692	692
資本剰余金	635	635
利益剰余金	△213	△695
純資産合計	1,114	632
負債純資産合計	1,337	815

第2四半期(累計)損益計算書

(単位:百万円、単位未満切捨)

科 目	前中間会計期間 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	当第2四半期累計期間 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで
売上高	106	104
売上原価	71	360
売上総利益(損失)	34	△255
販売費及び一般管理費	216	203
営業損失	181	459
営業外収益	2	0
営業外費用	1	14
経常損失	180	473
特別利益	2	0
特別損失	206	7
税引前四半期純損失	384	480
法人税、住民税及び事業税	1	1
四半期純損失	386	482

第2四半期(累計)キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円、単位未満切捨)

科 目	前中間会計期間 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	当第2四半期累計期間 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△176	△200
投資活動によるキャッシュ・フロー	△20	△6
財務活動によるキャッシュ・フロー	△83	△11
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△7
現金及び現金同等物の増減額	△280	△226
現金及び現金同等物の期首残高	625	491
現金及び現金同等物の四半期末残高	345	265